

合言葉は“百年の森”

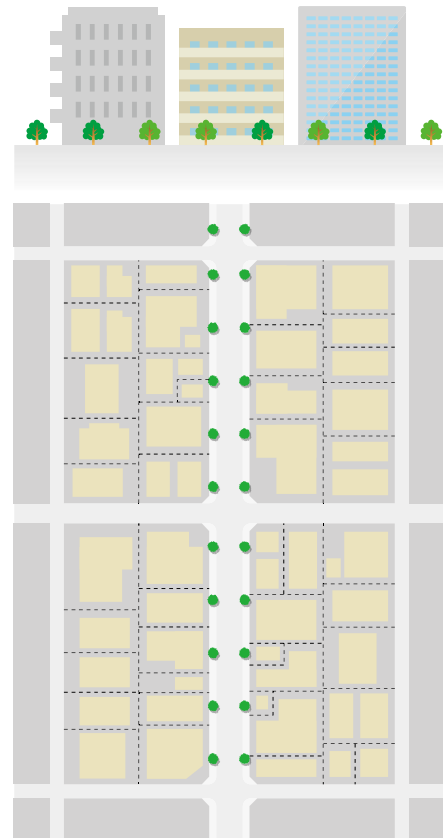
さあ、三鷹のこの先百年の物語を始めましょう

“百年の森” 構想って何？



三鷹市は、まち全体がうるおいを持った「緑と水の公園都市」を目指しています。今ある建物がいずれ建て替えとなる時に、緑のスペースを創出していくことで、だんだんと緑を増やすと、やがて市全体が大きな緑のまちとなります。多くの時間を要しますが、市民の皆さんと一緒に緑を育てると、百年後にはきっと緑あふれる空間が広がっているはずです。

現在



- 建物空間にゆとりがない
- 無機質で冷たいイメージ

これから



- 建物の足元にゆとりのある緑のスペースを創出する。
- 歩道と一体となった緑化空間の形成
- 屋上や壁面の建物緑化

“百年の森”は どうやってつくるの？



“百年の森”をつくるには、いくつかの段階を踏んでいく必要があります。これからこの冊子の中で、順番に説明していきます。

フェーズ 1 “子どもの森”をつくる

▶ P3～6へ

三鷹駅前地区に緑あふれる“子どもの森”をつくります。
“子どもの森”ってどんな場所？という問いにお答えします。
※“子どもの森”は、「子ども＝未来の象徴」として、この場所が未来のまちの拠点となるように市が示したまちづくりの構想で、名称は仮称です。

フェーズ 2 三鷹駅前地区の緑をだんだん増やしていく

▶ P7へ

“子どもの森”を拠点として、三鷹駅前地区の緑化を推進します。
これからの三鷹駅前地区のまちなみについて、考えていきます。

フェーズ 3 緑をつないで市全体を「緑のまち」にする

▶ P8へ

市内各所の緑地をつなぎ、市全体を「緑のまち」にしていきます。
三鷹市全体の将来のまちづくりについて、考えていきます。

私たちが大人になっても
ずっと“百年の森”づくりは
進んでいくんだね！

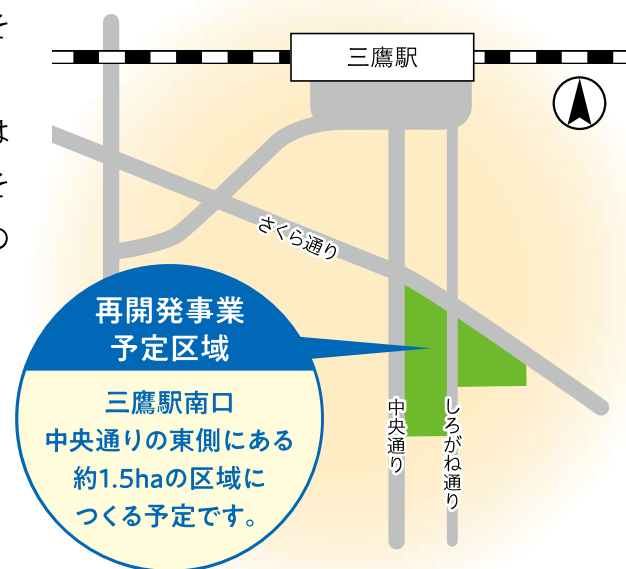


“子どもの森”をつくる

“百年の森”構想を実現するための第一歩となる拠点、それが“子どもの森”です。

市内の各所に豊かな緑がある三鷹市ですが、三鷹駅前には緑や公園などのスペースが少ないという現状があります。そこで、駅前の再開発をきっかけに、市の内外からたくさんの人が集い、憩える、緑の空間を整備したいと考えています。

駅のすぐ目の前に、自然と融け合う空間があるまち。そこから広がる心豊かな暮らし。そんな夢のある未来のまちを、一緒につくっていきませんか。



“子どもの森”ってこんな場所

“子どもの森”の施設や機能は、現在検討を進めているところですが、ここではこれまでに皆さんからいただいたアイデアや、検討してきた内容をご紹介します。

子どもたちが安心して楽しく過ごせる場所

子どもの笑顔と夢であふれる楽しい空間を検討します。
家族が子どもたちと一緒に過ごし、地域とともに子どもを育む場所を目指します。

- 例**
- 水遊びができるせせらぎ、小川
 - ツリーハウス
 - 木の上の遊び場
 - 科学館、天体観測ができる施設などの子どもの学びにつながる施設
 - 体験型キッズパーク
 - ボルダリング・体操・ダンス・ヨガ・e-sports
 - プログラミングなどが学べる場所



にぎわいを生む新たな三鷹のシンボル

市の表玄関、三鷹の顔となる地域である三鷹駅前地区が活性化の拠点になって、多くの市民の皆さんが集まるような、新しい三鷹のシンボルとなる場づくりを検討します。

- 例**
- 子どもがのびのびと遊べる明るい広場
 - 買い物などの途中に一息つける休憩所
 - 雨天でも催しが開催できるような設備
 - 阿波踊り・朝市など多彩なイベントができるスペース
 - プロジェクションマッピング



暮らしを豊かに彩る良質な買い物空間

家族や友人グループなど、さまざまな世代と一緒に買い物や食事を楽しめる空間を検討します。



- 例**
- 小さな子ども連れで楽しめる親子カフェ
 - 三鷹産有機野菜とエコが特色のファームレストラン
 - 地産地消型食品店・スーパーマーケット
 - チャレンジショップ
 - シェアキッチン
 - オープンカフェやバル
 - キッチンカースペース

自然と融け合いながら人とまちが成長する場所

自然に触れたり、親しんだりしながら人やまちが成長できる「人とともに生きる森」の創出を検討します。

- 例**
- 屋上などを活用した酪農やヤギの飼育
 - 野菜の収穫体験
 - 都市型農園
 - 小動物が生息し、触れ合える場所
 - 鳥類や昆虫など、多様な生物が共存する森
 - 滝やミストなど、水を使用した施設
 - 屋上緑化・壁面緑化
 - 自然素材でつくられた、土に還る建物



地震などの自然災害への備え

地震や台風、局部的豪雨などの自然災害に備えた防災拠点の整備を検討し、「防災・減災のまちづくり」を進めていきます。
また、感染症や新しい生活様式に配慮した機能も検討します。

例

- 防災井戸・かまどベンチ・マンホールトイレ・備蓄倉庫の整備
- 広場など、災害時に帰宅困難者の一時滞在施設となる機能
- 防災拠点としての機能
- 分散ネットワーク型の公共施設
- 感染症に対応する施設
- デジタルサイネージによる災害時の情報提供
- 自家発電装置の設置
- 自然エネルギーを使用した発電設備



- 災害時に電気を供給する電気自動車
- 非常時に使える携帯電話の充電設備
- 一定の階層ごとに備蓄倉庫や避難スペースのある高層住宅
- 無電柱化や歩道の拡幅など、災害時でも安全に通行ができるよう配慮した機能
- サテライトオフィス、コワーキングスペースなど、持続可能な働き方・暮らし方に配慮した機能



生涯学習と多世代交流・多文化共生の場

すべての市民が集い、憩えるような交流の場をつくります。
子育てや介護など、日常の悩みを共有できる空間・施設づくりを検討します。

例

- 子どもたちが楽しく学べる図書館
- 滞在・交流型の図書館
- 市民活動スペース、小ホール、会議室
- 国際交流の場所
- 多文化共生センター(仮称)
- 多言語化に対応したデジタルサイネージの設置



環境と人にやさしい安全と安心の機能

環境と安全に配慮した施設を整備し、持続可能で誰もがのびのびと落ち着いて過ごせる空間を創出します。

例

- 駐輪場・駐車場の整備
- 歩道の拡幅や無電柱化
- 電気自動車の推進
- 太陽光発電システムの導入
- バリアフリーに配慮した機能・設備
- ビオトープの設置
- 新たなバスベイの設置
- 公共交通ネットワークの見直し
- プラスチック製品の抑制(藁のストローや紙製の食器)



三鷹の文化・日本文化の発信拠点

国内外からの来訪者が、より楽しい時間を過ごせるよう、地域の魅力を積極的に発信する拠点を整備します。

例

- 外国人観光客への対応も充実している観光案内施設
- 太宰治の文学施設
- 三鷹の観光資源や特産品、お土産のPRなど、地域の魅力を発信する施設
- 日本の伝統文化を学べる教室
- 天文・科学情報スペースの導入

